

2021年度 日本工学院専門学校											
音響芸術科											
サウンドコンテンツ											
対象	2年次	開講期	後期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	川澄 伸一			実務 経験	有	職種	レコーディングエンジニア				
授業概要											
<p>現場にでて実践的な音響やシステムの取り扱いや知識を広げていくことが目的。近年のレコーディングはコンピュータによるDAW化によって手軽なものとなり、簡単な操作をすれば何かしらの音の変化を起こすことが可能となった。しかし、闇雲に音をいじる事は完成時に取り返しの付かない結果を招くこともある。目的とする音作りへの到達は音の現象を正しく理解し、効率的にパラメーターをいじることによって速度アップが可能となる。そのための音響基礎の理解を目的とする。</p>											
到達目標											
<p>プロフェッショナルとしての音の扱い方のまとめ。アナログ機器とデジタル機器を平行して学習していくことにより、音の処理を基本的な部分から理解し、音の変化の仕組みもイメージできるようにする。音に関する単位や様々な基本的な数値についてもしっかりと記憶していただき、プロフェッショナル・エンジニアとしての知識を豊富にしていく。近年のデジタル化により音の記録フォーマットも増えているので、これからの新しい技術に対応していくためにもアナログ的な基本技術も理解していくことを目標とする。</p>											
授業方法											
<p>プリント資料を適時配布し、自分で完成させるワークタイプの物も配布するが、各自で音響関連の用語集を持参することが望ましい。オンライン形式の授業である。前回までの各項目を理解した上での次項目へ繋がるため、復習も随時行いながら進行する。映像、音響資料も多用する。</p>											
成績評価方法											
<p>試験・課題 80% 試験と課題を総合的に評価する。 平常点 20% 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。</p>											
履修上の注意											
<p>この授業では、音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>											
教科書教材											
必要に応じて適宜資料を配布する。											
回数	授業計画										
第1回	モニターについて：モニター、モニターコントローラーの仕組み、ヘッドホンとスピーカーについて理解する										
第2回	5. 1サラウンド：サラウンドシステムの概要について理解する										
第3回	映画館のサウンド：Dolby, DTS, THXの特徴と違いを理解する										
第4回	劇伴収録：映像とレコーディングスタジオの関係がわかる										
第5回	音響補正：ピッチ修正とタイミング修正ができる										
第6回	様々な楽器収録：ポピュラーから珍しい楽器の収録ができる										

2021年度 日本工学院専門学校	
音響芸術科	
サウンドコンテンツ	
第7回	ライブレコーディングシステム：ライブレコーディングとスタジオレコーディングの違いを理解する
第8回	マルチトラックの技術：アナログ時代のテクニック、ノイズ対策、ピンポンなどを理解する
第9回	DTM：DTMの誕生からProToolsの流れを理解する
第10回	マスタリング：アナログ時代～現代のマスタリングを理解する
第11回	エフェクター応用1：イコライザーとコンプレッサーが使えるようになる
第12回	エフェクター応用2：リバーブとディレイが使えるようになる
第13回	エフェクター応用3：モジュレーション、その他エフェクターが使えるようになる
第14回	Voice：人の声の録音と加工の応用、実践例を理解する
第15回	後期まとめ：全体の確認と復習